

エコカー減税のおかげでハイブリッド車が売れている。一方、電気自動車も商業化に成功、これから数年後には価格引き下げでハイブリッド車との競争になるかもしれない。数十年後、石油が枯渇するころには、電気自動車が世界中の道を走っているだろう。

地球温暖化に対する危険の認識の浸透に伴い、化石燃料を使うことは地球の温暖化を加

## エコ飛行機はいつ飛ぶ？

速させるので、化石燃料を使う技術の利用には課税を、使わない技術の利用には補助金を、という考え方が、世論で支持されるようになった。

最後まで化石燃料に頼るのは、飛行機だろうか。バイオ燃料も供給量に限界があるだろう。軽飛行機は太陽光パネルの電気でプロペラを回して飛べるが長距離は無理。究極は水素を燃料とする飛行機だが、石油が枯渇する、あるいは非常に高価格になるまでに技術開発が間に合うのか。

東京大教授

伊藤 隆敏

05年以来、航空会社は石油価格と実質的運賃をリンクさせる「燃油サーチャージ」なるものを導入している。現在はゼロだが、今年秋にも復活しそう



だ。さらに欧州では域外からのフライトも含めて航空機（会社）からの温室効果ガス排出上限規制の導入も検討している。今後、石油価格と航空（実質）運

賃は強く相関するようになるだろう。

水素飛行機の技術開発が石油希少化、地球温暖化防止に間に合わないならば、十数年後には飛行機による旅行が庶民の手に届かないような高価なものになっているかもしれない。燃油サーチャージは、その前触れか。大陸間移動や貿易が縮小するというリスクがある。国内（大陸内）は当然高速鉄道だ。そう考えると、国内線用空港ではなく、新幹線網の完成を急ぐべきだったのだろう。